

1 これまでの振り返り

○札幌市は2015年3月、世界に誇れる持続可能な低炭素社会「環境首都・札幌」を目指して、「札幌市温暖化対策推進計画」を策定し、新たな目標を掲げ、率先して対策に取り組むこととした。

長期目標 2050年に1990年比で**80%削減**
(目標排出量: 187万t-CO₂)

中期目標 2030年に1990年比で**25%削減**
(目標排出量: 701万t-CO₂)

○しかし、目標達成には、市内の温室効果ガス排出量の約9割を占める**民生家庭・民生業務・運輸部門**の3部門での削減が重要であり、特に市民や事業者によるより一層の省エネ行動や省エネ・再エネ機器導入が必須となる。

○そこで、第10次札幌市環境保全協議会では、委員が持つネットワークやフィールドを活用し、これらの部門における温室効果ガス削減に向けたプロジェクトを札幌市と協働で進めることにより、目標達成に向けたベタープラクティスを創り、広げていくことを目指す。

参考：国の削減目標との比較

○2015年11～12月にパリで開催されたCOP21（第21回気候変動枠組条約締約国会議）で採択されたパリ協定を受け、2020年以降の温室効果ガス削減に向けた国際的枠組みの合意に向けて各国が削減目標を国連に登録しているところ。

○日本においても、**2030年度に2013年度比で温室効果ガスを26%削減**することを目標とすることを国連に提出しており、目標達成に向け、地球温暖化対策計画をこの5月に閣議決定したところ。

○この目標達成のためには、**家庭部門と業務部門はそれぞれ2013年度比で約40%の削減（運輸部門は約27%）**が必要と試算されており、市民や事業者の積極的な取組の推進が必要とされている。

○札幌市温暖化対策推進計画における目標も、**2012年比で家庭部門は41%、産業・業務部門は18%、運輸部門は28%の削減が必要**（電力排出係数の影響を除く）と試算しています。

	2012年度の温室効果ガス排出量	2030年目標に必要な削減量	削減割合
家庭	498万t-CO ₂	約202万t-CO ₂	41%
産業・業務	529万t-CO ₂	約95万t-CO ₂	18%
運輸	268万t-CO ₂	約74万t-CO ₂	28%

市民・事業者による積極的な取組の推進が必要

2 今年度の目標と実施内容について

【今年度の目標】

○家庭部門・業務部門・運輸部門の各部門において、これまで環境局が連携が取り組めていなかった分野のカウンターパートとともに、市民や事業者による温室効果ガス削減に向けた取組の事例を創出する。

【次年度以降の目標】

○平成28年度で得られた成果を踏まえ、発展及び継続が可能かどうかを検証し、優良事例については他の主体とともに取り組みを発展させていく。
○発展させた取組については、第11次協議会において引き継ぐとともに、札幌市の事業として位置付けられるよう検討していく。

家庭部門

「にぎわい商店街エコトーププロジェクト」

- 発寒北商店街振興組合（ハツキタ商店街）をフィールドに、以下を実施。
 - ・イベントにおける省エネ行動への啓発を実施（7月30日）
 - ・イベントを通じた家庭における節電行動の誘発（8月～10月下旬）

業務部門

「札幌市内事業所における省エネ活動推進プロジェクト」

- 環境省「CO₂削減ポテンシャル診断」を活用した市内事業者へのエネルギー削減アドバイスの実施。（札幌市から可能性のありそうな事業者に声かけを行ったが、診断までは結びつかず）
- 市内事業者の従業員や顧客に向けた意識向上プログラムの実施

運輸部門

「環境に優しい移動方法普及プロジェクト」

- 既存イベントの活用による「公共交通の日」の設定
 - ・環境広場さっぽろ（8月5-7日）、市電フェスティバル・北海道バスフェスティバル（9月4日）での普及啓発の実施
- ベロタクシーのラッピングデザインコンテスト
- 自転車・ベロタクシーを活用した市内サイクルツアーの実施